

令和5年度 第1回 川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会

日 時 令和5年6月23日（金）

10時00分～

会 場 中原市民館第2会議室

次 第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 館長あいさつ
- 4 中原市民館新任職員紹介
- 5 資料確認
- 6 令和4年度第4回専門部会の議事録（案）について
- 7 議 事
 - (1) 報告事項
 - ア 市民館の管理運営について
 - イ 社会教育振興事業について
 - ウ その他
 - (2) 協議事項
 - ア 令和5年度の調査審議スケジュールとテーマについて
 - イ その他
- 8 その他
 - (1) 第2回専門部会の開催候補日について
 - (2) 川崎市市制100周年記念事業、全国都市緑化かわさきフェアについて
 - (3) その他
- 9 閉会

配布資料

- 資料1 令和4年度第4回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）
- 資料2 中原市民館の管理運営についての現状
- 資料3 中原市民館社会教育振興事業計画（令和5年度）
- 資料4 令和5年度中原市民館専門部会のスケジュール、調査審議テーマ関連資料
- 資料5 川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会委員名簿

令和4年度 第4回社会教育委員会議中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和5年2月5日（日）15時から16時30分まで
【会 場】 中原市民館視聴覚室
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員
日吉委員
【欠席者】 なし
【事務局】 石川館長、船津係長、小栗係長
【傍聴人】 0人

専門部会の委員8人全員が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

1 開会

2 資料確認

資料 令和4年度第3回社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）

3 議事

- (1) 令和5年度 市民自主学級、市民自主企画事業の選考 ※非公開
- (2) 令和4年度第3回専門部会の議事録（案）について
- (3) 令和4・5年度の調査審議について
- (4) その他

4 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 資料確認

事務局（船津係長）

3 議事

(1) 令和5年度 市民自主学級、市民自主企画事業の選考 ※非公開

(2) 令和4年度第3回専門部会の議事録（案）について

事務局（小栗係長） 資料について説明

(3) 令和4・5年度の調査審議について

鈴木部会長 今年度最後の専門部会ですので、調査審議のテーマを決めたいと思う。どのようなテーマがふさわしいか、皆さまから意見をいただきたい。

事務局（小栗係長） 補足になるが、前回の議事録を御確認いただくと、菊地副部会長からは「生きがいつくりを見つけられる市民館」というあたりで仮のテーマとして置いてみたらどうか。また木村委員からは「これからの市民館に期待するもの」が良いのではないかなどの意見を頂いている。

鈴木部会長 テーマが決まったら、前回同様にイベントを実施するのか。

事務局（小栗係長） 様々な進め方がある。前回の議事録にもあるが、何かしら課題があつて、それを解決するための提言をしている幸市民館と麻生市民館の例や、課題への対応策を実施した結果について、一連の流れを伝えて提言するという高津市民館のような例もあり、前回の例に特にこだわる必要は無いが、現在はまだテーマが決まっていない状況なので、まずはテーマが決まれば良いと思っている。

滝沢委員 前回の議事録には、委員からの意見として、「生きがいつくりを考える」「市民同士のつながりを考える」「敷居が低い市民館」「地域のつながりを考える」「市民館の役割を考える」「子どもの貧困を考える」などがあると記録されており、こちらも参考になるのではないか。

鈴木部会長 大きな視点で見ると、例えば、子どもの虐待など、中原区のお父さんやお母さんに提言できること、貧困、不登校なども課題としてあるのではないか。

滝沢委員 方向性だけでも決められると良いと思う。

木村委員 前回の会議終了後に委員同士で話をしたのだが、今すぐではなく、10年後やそれ以降を見据え、区民の夢や希望を育てるような市民館になっていくことが大切ではないか。

滝沢委員 市民館の役割を考えるということだろうか。

木村委員 堅苦しい感じではなく、敷居を低くして、「ふらっと立ち寄れる市民館」などでも良いのではないか。

鈴木部会長 先日の「教育を語るつどい」でも、横浜市都筑区から来た御夫婦が受付の近くにいらっしゃって、ふらっと参加してもらったことがある。

日吉委員 もしこれがテーマになるとしたら、ふらっとにFLATの意味を持たせること

もできるのではないか。それが、どんな世代にもつながるのではないか。そういうふらっとな場所になると良いのかと思う。

梶川委員　もしそうなったとしたら、ふらっと立ち寄れる場所も必要になると思う。以前はラウンジに飲食スペースがあったので、それが良かった。指定管理者制度に移行したら、そのようなこともできるのだろうか。

事務局（石川館長）　今でもラウンジは飲食可で開放している。

梶川委員　でも、お茶とかは自分で持ってくる必要があるんですね。

事務局（石川館長）　お茶は自分で買って頂く。

事務局（小栗係長）　以前は、社会福祉法人が「いくおう」という名称で就労支援を兼ねて、ラウンジで飲み物や軽食提供などの運営をしていた。「いくおう」は撤退したが、館長が言われたとおり、ラウンジの開放はされている。

梶川委員　誰でも立ち寄れるというイメージには合っているのではないかと思った。

但野委員　活動センターは登録団体しか使えないという規定があるので、ふらっとは立ち寄れない。市民館への期待は大きいと思う。それが実現して、大人も子どもも楽しく立ち寄れる場になると良いと思う。

日吉委員　ふらっとイベントとして、誰でも参加できるイベントを企画しても良いのではないか。

梶川委員　毎日だと、他の利用者の妨げになってしまう可能性があるので、イベントなら良いのでは。

滝沢委員　良いテーマではないだろうか。

木村委員　それを市民館の事業でもやって欲しい。私たちも手伝うが、生涯学習交流集会をふらっとフェスティバルにするなど、テーマ性を持ったものにして欲しい。

梶川委員　デジタルのことを教えて貰えるワークショップなどがあると嬉しい。

木村委員　全館で無くても、いくつかの部屋やコーナーなどの一部スペースだけでも良い。子どもや子どもと関わりたい高齢者も居るので。

日吉委員　そういう人たちが一緒に入っても良いし、見ているだけでも良い。

梶川委員　男性でも、そのような機会に来れば、良い機会になるのでは。

木村委員　文化協会の先生方に御協力いただいて、男性でも興味が持てる機会が設けられると良いと思う。

滝沢委員　数年前にそのような企画を実施した覚えがある。

事務局（小栗係長）　確かに、数年前に中原市民館の移転10周年の記念事業として、全館貸し切りで、「かわさき家庭と地域の日」にPTAや各種団体の協力を仰いで、イベントを実施したことがあるが、他にも様々な手法が考えられると思う。事務局としてお話を伺っている限り、今回の調査審議のテーマは「ふらっと立ち寄れる市民館」で良いのではないかと思うが、いかがか。

事務局（船津係長）　補足させて頂くと、「ふらっと寄る」と「まちに飛び出す」は、「市民館のあり方」の中でも重要な概念として議論されているところだが、ふらっと寄れるというアイデアは、なかなか出てこない。会議室を貸すという空間づくりが

設計されている中で、ふらっと寄れる構造には無いのではないかという気がしている。ただし、貸館の一部を変更したり、ある空間を別の用途で用いるなどなど、いろいろなアイデアはあると思っている。そのような本質的なアイデアを委員の皆さまから頂ければ、市民館は本当にふらっと立ち寄れる場所になると思う。もしかしたら、何かしら毎日イベントが行われていて、ふらっと来た人が参加できるものが何かあるという状態が、ふらっと寄れる市民館の最終的な姿なのかも知れない。それを提示するには、皆さんのアイデアが必要。それを提示していただければ、非常に大きな一歩を踏み出すことができると思うので、テーマとして賛成である。

木村委員 以前、高津市民館の専門部会で「ふらっと縁日」というテーマで実施したことがあるので、言葉が少し気になることもあるが。

日吉委員 ラウンジの一部を囲碁やLINE講習など、いつでも立ち寄れるスペースにするなどのアイデアもあるのではないか。ギャラリーが開いている週に開催する方法なども考えられる。小さくても、できる事を積み重ねる方法もあると思う。

但野委員 貸館という性質が大きな規制になっていると思うので、ふらっと立ち寄れるという意味では、1階部分を上手く活用できると、市民館に馴染んでもらえて、配架しているチラシなども見てもらいやすいのではないか。

事務局（船津係長） 麻生市民館に在籍していた際に、体育室を1日開放デーにして、卓球台を置いて、その時間帯は誰でも利用できるという試みをしたことがある。そのような試みを行政が実施する方法もあると思うし、活動している方が、その部屋を借りた上で、開放的に何か行うという手法もある。これだけ多くの方に市民館を利用して頂いているということは、それだけ潜在的な開放要素はあるのではないかと思う。イベントや共用部を利用する手法もあるが、それよりも市民館利用者が使っているスペースの方が圧倒的に多いので、意識を変えて頂けるような方法を模索する、例えば、フラダンス教室の主催者に参加をオープンにしてもらうとともに、行政はそれを広報などで協力する手法もアイデアとしてはあると思う。その意味で、市民館をふらっとにする要素は多くあると思う。自由な発想でアイデアを頂けたらと思う。

木村委員 今仰ったようなことは菅生市民館で既に実施している。1～3月をそのような期間として、各サークルに協力を募り、分館だよりで広報をしている。このようなことが日常的に行われれば、ふらっと立ち寄れる市民館になると思う。

日吉委員 先日ギャラリーで押し花を展示していた団体が、これで最後かしらなどと言っていた。展示するだけで目一杯。例えば、展示の応援を中学生や高校生が手伝うなども考えられるのではないか。

事務局（小栗係長） まとめになるが、今回の調査審議のテーマは、「(仮) ふらっと立ち寄れる市民館」で差し支えないか。

(一同賛同)

中道委員 先ほどの話からすると、私たちのサークルは常にオープンで、いつでも受け付

けますというのをSNSなどでも発信している。近くだったら行きたいというコメントを頂くこともあるが、必ずしもこの地域の方に届くとは限らず、難しいところなので、広報の面で市民館の協力をお願いしたい。中原市民館で実施しているオープンキャンパスでは、市民館だよりで広報して頂いたので、10人程度の来場者があった。私たちのサークルが市民館を利用可能になった場合などでも、何らかの広報があると有難い。

木村委員 市民館の入り口で分かるようにすると良いのでは。

事務局（船津係長） 市民館の利用者同士で交流する手法もあるのでは。

木村委員 サークルのCMを作成する方法もあるのでは。

（４）その他

事務局（小栗係長） 次回の日程についてお伝えしたい。今回は次年度になるが、日程については、4月以降、調整を進める予定である。

事務局（船津係長） 年度を跨ぐことに伴い、委員の改選が生じる場合がある。もし委員の交代が生じる場合は、手続きが必要になるので、そのような際は、御一報頂きたい。

4 閉会

中原市民館の管理運営についての現状 (令和5年6月現在)

中原市民館の管理運営水準を適切に維持、向上する取組を実施しています。

中原市民館の管理運営に係る課題

1 貸館利用に関して

(1) 施設貸出備品の充実に努めること（継続）

利用者の要望を受け、和室利用者のための座椅子を4脚配置しました。また、旧中原市民館時代から使用している実習室の陶芸窯が老朽化して故障が多くなってきたことから新しい陶芸窯を購入する準備を進めています。

(2) インターネット回線を整備すること（完了）

貸館利用者が無料で使用できるインターネット回線の整備が3月末に完了し、すでに多くの会議室利用者にご使用いただいております。LAN ケーブル、ネットワークハブ、ルーター等の貸出も開始しました。また、共用廊下等において、さらに広い範囲で「かわさき WiFi」が受信できるようルーターの増設及び配線の延伸工事も完了しています。

(3) 快適な利用環境の創出に努めること（継続）

空調の適切な温度管理を実施しています。その他、照明の間引き点灯を実施するなどの節電対策を実施しています。今年度はギャラリーのスポットライトを含め、3月までに全館の照明 LED 化を進める予定で準備を進めています。備品では、会議テーブルのキャスター部の劣化が見られるため、キャスター交換を順次進めています。

2 施設の管理運営に関して

(1) 開館後14年の経過に伴う設備の老朽化対策（継続）

不具合のあった誘導灯の交換工事は3月末に完了しています。その他不具合が発生した場合には速やかに対応します。

(2) 都市災害（水害）対策（継続）

台風や豪雨等に伴う浸水対応のため、出入口用の止水板をグループ室に配置し、いつでも設置できる体制を整えています。また、昨年度は立体駐車場用に止水板を配置し、併せてスタッフに対して設置訓練も実施し、水害対策のさらなる強化を図っています。

(3) 利用率向上対策（継続）

新型コロナウイルス感染症が5類の位置付けとなり、徐々に市民館の貸館利用も感染症の発生前の水準にもどりつつあり、利用率は向上しています。感染症等の動向に注視しつつ、供用備品等の充実に努めながら、利用率向上に努めていきます。

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 社会参加・共生推進学習事業 社会参加の機会を得にくい方を対象に社会参加のための支援学習を行う。	識字学習活動～日本語学級～	日常生活に必要な日本語の会話・読み書きの基礎学習を支援し、学習者と支援者(ボランティア)がともに学び合う関係づくりを通して多文化共生社会の実現をめざす。	○午前コース(原則毎週火曜) 学習支援:ことばの木 保育ボランティア:どんぐりの会 ○夜間コース(原則毎週火曜) 学習支援:はらっぱ	午前:通年開催(火曜日)8月を除く 夜間:通年開催(火曜日)8月を除く											
	識字ボランティア研修	識字学習活動にかかわるボランティアの育成と資質の向上を図る。	○にほんごボランティア夜間クラス入門研修	6月13日～8月22日、12月26日											
	障がい者社会参加学習活動	地域での体験活動や交流等の学習機会を提供することを通して、障がいのある人の社会参加促進を図るとともにノーマライゼーションの理念に基づき、共に生きる地域社会の実現をめざす。	○ヤングジャンプセミナー(毎月第3日曜日)	通年開催(毎月1回)											
	障がい者ボランティア研修	「障がい者社会参加学習活動」のボランティア等に、障がい者の理解やボランティア活動のあり方等に関する学習機会を提供することにより、障がい者の学習権保障の充実とボランティアの人権意識の向上を目指す。	○ボランティア合同研修(宮前市民館で実施)	12月(予定)											
2 市民自治基礎学習事業 絶え間なく変化する社会の中で生じる様々な問題を共通の課題として学び合うことを通して、市民自治の基礎となる力を培う。また、小さな子どもがいても学習に参加できるように保育活動を実施する。	平和・人権・男女平等推進学習	憲法、教育基本法の理念に基づき、世界の平和及び人権の尊重、性による差別や人権に関する問題解決に向けた学習機会を提供し、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成を目指す。	○女性の視点から地域防災を考える ○調整中	10月～12月(土日)(予定)											
	青少年教室事業	小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。	○Hayabusa2 大航海再び	9月24日											

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	シニアの社会参加支援事業	シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。	○調整中														
	高齢者セミナー	高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期をおくるための支援をする。	○認知症・相続・成年後見について具体的な事例から学ぶ														
	家庭・地域教育学級	子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し、親として市民としての学びを支援する。	○調整中														
	市民館保育活動	親等の学習活動への参加を促進し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。	識字学習活動、家庭・地域教育学級等を行う際に保育活動の実施を検討														
	保育ボランティア研修	子育てを支援する保育ボランティアの資質の向上に向けた学習機会を提供することにより、地域で支え合う子育ての環境醸成を図る。	○中原市民館保育ボランティア養成講座														
	PTA家庭教育学級講師派遣	PTAが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な成長に向けた学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。	各単位PTAの企画により実施														
	子育て支援啓発事業	地域における身近な子育て関連情報を保護者等に幅広く提供するために、保護者同士の交流を図るための集会等の開催を行う。	○子育てみんなのひろば 就園までの子どもと保護者を対象 ○くるん赤ちゃん広場 【ねんね期】5か月までの子と保護者 【離乳期】6か月からハイハイまでの子と保護者 (各月1回)														

実施する際は、ボランティアと協議

各学校PTAにて検討中

通年開催(5月23日～2月6日)

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況															
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
3 市民学習・市民活動活性化学習事業 地域課題や生活課題の解決に向け、市民自らが企画運営し学びの場を創る。市民からの提案をもとに学習を通して新たな協働関係と地域づくりの展開をめざす。	市民自主学級	市民と市民館の協働により、地域や社会の課題解決に市民自らが取り組むために必要な学びの場を創り、市民の主体的な学習活動や市民活動を活性化する。	○“CO”育て世代のしなやかファミリー講座2023 企画運営：しなやかファミリー会																
	市民自主企画事業	地域や社会の課題解決や地域の特性に応じた生涯学習・文化芸術の振興や、市民活動のネットワーク化の活性化等を目的として、集会、講演会等多様な形態の学習事業を市民と市民館が協働で実施する。	○シンプルライフセミナー2023 「捨てない暮らし」 企画運営：ごみるんるん																
			○デジタルサポート支援事業 企画運営：デジタルサポートの会																
	市民エンパワーメント研修	市民自らが考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民全体の地域づくりを支援する。	○月1回から始めよう！地域ボランティア（障がい者社会参加活動ボランティア入門研修）																
	市民講師活用事業	様々な分野において豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるような育成・支援を行う。	○調整中																
	「地域の寺子屋事業」コーディネーター養成講座	「地域の寺子屋事業」に参画し、開設や運営等をコーディネートする市民を養成する講座を実施する。	○調整中																
	「地域の寺子屋事業」情報交換会	寺子屋コーディネーターや寺子屋先生など「地域の寺子屋事業」に携わる者のネットワーク化や事業連携の推進を通じ、寺子屋事業の活性化、地域教育力の向上を目指す。	○調整中																
	リカレント教育推進事業	市民の学び直しの学習機会を提供することにより、市民自身が生涯にわたり学び続けていく自己啓発活動等の促進を図る。	○調整中																
	PTA活動研修	各学区や行政区の特色を生かしたPTA活動の活性化を図る。	PTAの各部会に応じて研修を実施																家庭教育部会

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況														
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	生涯学習交流集会	市民が主体的に学ぶ地域の生涯学習関係の醸成を図る。	○調整中															
	学習情報提供・学習相談事業	様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、適切な形で公開・提供するほか、市民及び市民グループ等の生涯学習に関する相談に対し、情報提供、助言を行う。	○生涯学習相談ルームアスク	← 通年開催(水曜日) →														
4 市民・行政協働・ネットワーク学習事業 市民と学校、区役所、市民館等が連携し、学習にかかわる情報やネットワークづくりを進め、生涯学習活動やボランティア活動、市民活動を積極的に支援する。	行政区・中学校区地域教育会議推進事業	行政区・中学校区地域教育会議の活動を支援及び促進するとともに、連携・協働を進めながら地域の教育力の向上を目指す。	中原区地域教育会議として活動(子ども会議、教育を語るつどいを例年開催)														こども会議 1月21日 ● 教育を語るつどい 2月3日 ●	
	課題別連携事業	地域での子育てや福祉、環境、まちづくりなどの課題解決に協働して取り組むため、関係機関との連携による会議及び必要な事業を実施する。	○子育ておしゃべり広場はない 子育て中の方々が気軽に立ち寄り、交流できる場を開設 保育ボランティア：にじの会 ○中原文化講座(調整中)	← 通年開催(8月を除く) →														
	学社融合推進事業	地域社会と学校との連携・融合のあり方について今後のあるべき姿を探るため、その課題について実践的な調査・研究等を行う。	○平間小SDGs フェスへの出展(協力：16mm映写機の会)															1月(予定) ●
	地域学習・文化団体連携推進事業	地域の学習活動を推進している学習・文化団体とのネットワーク化や事業連携の推進を通じ、市民の主体的な学習活動の活性化、地域の文化や教育力の向上を目指す。	○サークル祭 ○中原区文化協会の活動															サークル祭(5月12~14日) ↔ 子ども文化講座 ①子ども生け花教室(7月1日、8月5日、9月2日、10月21日または22日) ②子ども大正琴教室(7月8、22日、8月12、26日、9月9日、10月14日、10月21日または22日) ← 通年開催 →
5 現代的課題対応学習事業 緊急性のある地域の課題に即応した学習機会の提供をめざす。	現代的課題事業	現代的、今日的な課題に関わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援する。	○調整中															

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 教育文化会館・市民館学習環境整備事業	専門部会	川崎市社会教育委員会会議規則に基づいて行う。	○中原市民館専門部会			会議の開催(年4回を予定)									
	刊行・広報活動	生涯学習に関する情報を提供するため、市民館だより、ホームページ等の作成を行う。	市民館だよりの発行、川崎市ホームページへの掲載、チラシの作成等			市民館だよりの発行(年6回程度を予定)									
	情報機器等整備	総合教育センター視聴覚センターの市民への直接的な窓口として、教文・市民館で情報機器等の貸出しを行う。				ホームページによる講座情報の発信(適宜)									
川崎市制100周年記念プレ事業			○絵本作り講座						9月10日、18日、24日、10月9日						

令和5年度 中原市民館専門部会のスケジュール

6月 「令和5年度 第1回 中原市民館専門部会」
(今回)

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議

10月 「令和5年度 第2回 中原市民館専門部会」
(予定)

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議
- ・専門部会報告書の構成の決定

12月 「令和5年度 第3回 中原市民館専門部会」
(予定)

- ・令和4・5年度調査審議テーマの審議
- ・専門部会報告書の予定稿の確認

2月 「令和5年度 第4回 中原市民館専門部会」
(予定)

- ・令和6年度市民自主学級、市民自主企画事業の企画選考
- ・専門部会報告書の最終確認(ただし、例年ほとんど時間なし)

調査審議テーマ：ふらっと立ち寄れる市民館

【テーマ選定に関するこれまでの意見等】 核となる提言や意見をどう表現するか

- ・今すぐではなく、10年後やそれ以降を見据え、区民の夢や希望を育てるような市民館になっていくことが大切。
- ・堅苦しい感じではなく、敷居を低くする。
- ・「ふらっと」に「FLAT」の意味を持たせることもできるのではないか。

【専門部会としての報告書のまとめ方】 どのような方法でまとめるか

- ・課題に対して提言を行う方法：幸市民館、麻生市民館
- ・議論したアイデアを実現するという方法：教育文化会館、中原市民館
- ・実施した結果について一連の流れを伝える方法：高津市民館

【テーマに関する課題】 課題認識として適切か

市民館は、会議室を貸すという空間づくりが設計されている中で、どのようにして、「ふらっと立ち寄れる市民館」にするか。

【課題に対するこれまでの意見等】 課題認識に沿った意見や提言か、実現性のある意見や提言か

- ・貸館の一部を無くし、ふらっと立ち寄れる場所として活用する。(体育室を1日開放デーにして、卓球台を置いて、その時間帯は誰でも利用できるという試みの例)
- ・ふらっとイベントとして、誰でも参加できるイベントを企画する。
- ・ラウンジの一部を、囲碁やLINE講習など、いつでも立ち寄れるスペースにする。
- ・1階部分をさらにうまく活用できると、市民館に馴染んでもらえて、配架しているチラシなども見てもらいやすい。
- ・市民館の入口で、当日参加できるサークル活動が分かるようにする。
- ・市民館の利用者同士で交流する。

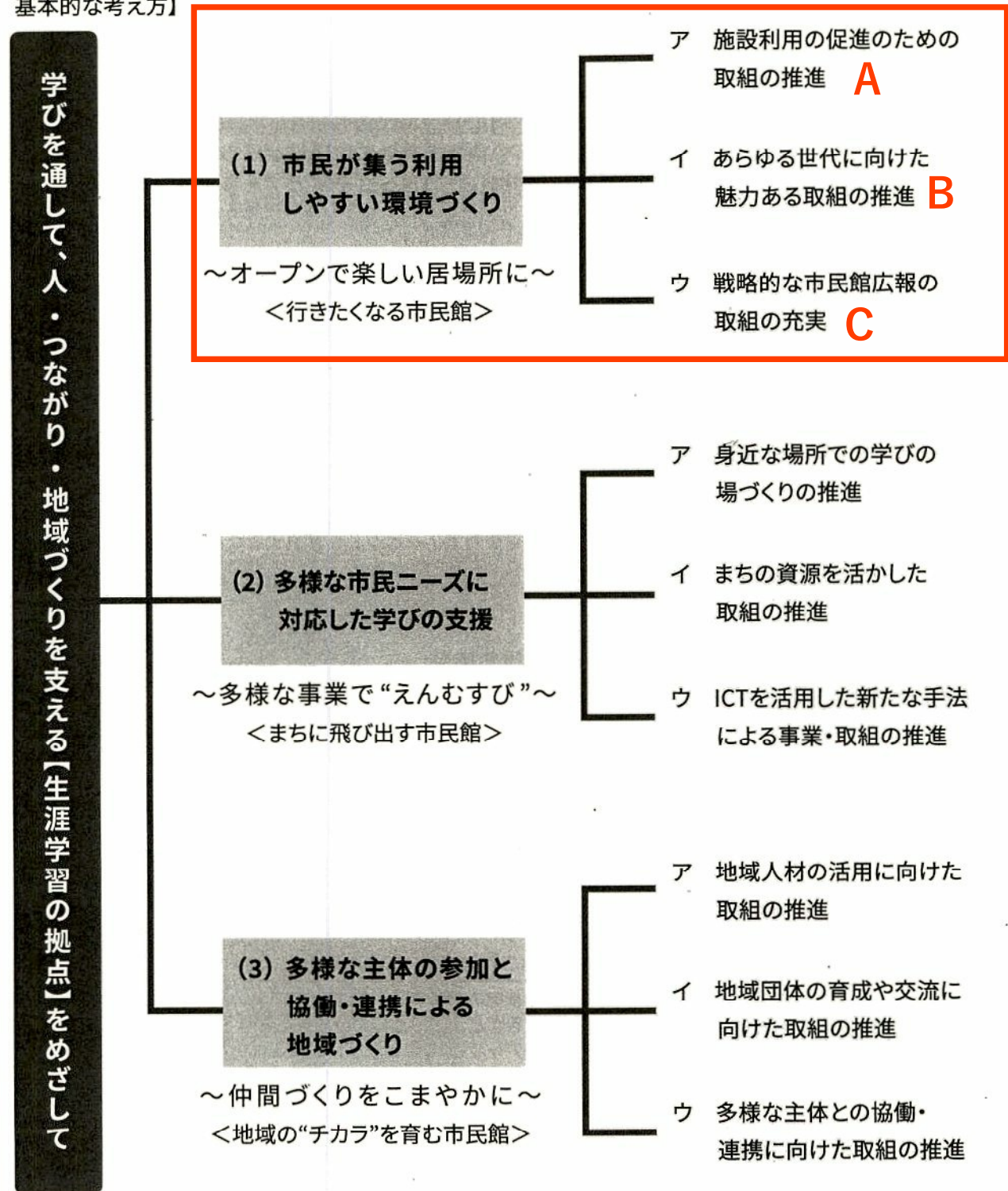
今後の市民館・図書館のあり方 令和3（2021）3月 から抜粋

【今後の市民館の運営のあり方の体系図】

【運営の基本的な考え方】

【事業・サービスの展開の方向性】

【取組の方向性】



3
今後の市民館の運営のあり方

4 取組の方向性

学びを通じた、人・つながり・地域づくりを支える「生涯学習の拠点」をめざし、3つの事業・サービスの展開の方向性に基づいて、次のような主な取組を推進します。

(1) 基本方針Ⅰ 市民が集う利用しやすい環境づくり ～オープンで楽しい居場所に～

ア 施設利用の促進のための取組の推進 **A**

各施設の状況に応じ、市民が気軽に集える居場所となるよう、館内スペースの有効活用を検討するとともに、諸室や設備等の機能を有効に活用しながら、市民館を知ってもらう体験講座の開催や地域団体等と連携したコミュニティカフェ事業等の取組を進めます。

主な取組	取組の内容
○オープンスペースを活用したコミュニティカフェ事業や交流イベントの実施	定期的に施設のオープンスペースなどを活用し、ロビーカフェや子育て広場などを開催し、市民が気軽に集い、交流や情報交換ができる居場所づくりなどの取組を推進します。
○地域情報・地域団体活動などを紹介する展示事業の実施	館内の壁面やオープンスペースなどを活用して地域団体の活動紹介コーナーや地域情報コーナーを設置するなど、市民館に来れば情報が得られる取組の充実を図ります。
○料理室などの教養室を活用した体験型の講座やイベントの実施	利用率の低い教養室を活かした学級・講座や当日申込で参加できる体験型教室・イベントを実施するなど、施設の利用促進に向けた取組を検討します。

イ あらゆる世代に向けた魅力ある取組の推進 **B**

小中高生、働く世代、子育て世代、シニア世代など、あらゆる世代への学びの機会の提供に向け、市民の関心が高いテーマや気軽に受講しやすいテーマの講座等を開催するとともに、働く世代に向け、仕事に活かせる知識習得や自己啓発等のための講座開催などの取組を進めます。

主な取組	取組の内容
○あらゆる世代に向けた多様な種類の講座・教室等の実施	学級・講座の実施に際し、それぞれのライフステージに応じたタイムリーな話題に留意したテーマ設定等を行うなど、あらゆる世代に向けた魅力ある取組となるよう事業の充実を図ります。
○働く世代に向けた自己啓発やリカレント教育等の内容の充実	休日や夜間の事業実施、期間を短期での開催や単回での開催に設定するなど、働く世代の参加のしやすさに配慮するとともに、スキルアップ教室やリカレント教育の実施など、働く世代に向けた学習機会の充実を図ります。
○多様な主体と連携した、参加しやすく、行きたいと思う学級・講座の実施	教養講座等にノウハウを持つ川崎市生涯学習財団やかわさき市民アカデミー、高等教育機関等と連携した文化・教養講座の実施など、市民が気軽に受講しやすい学級・講座の実施を検討します。

ウ 戦略的な市民館広報の取組の充実 **C**

これまでの「館のたより」やチラシ、ホームページ等での広報に加え、あらゆる世代に向けた広報の充実のため、SNSやメールマガジンなどの多様な広報媒体の活用を図るとともに、その内容の充実に向けて、わかりやすい工夫をしたコラムなどによる情報発信や魅力ある地域情報の発信などを進めます。

主な取組	取組の内容
○気軽に情報を取得できるツイッター等のSNSやメールマガジンなどによる情報発信	「館のたより」の配布やチラシ・ホームページでの広報に併せて、ツイッターやInstagramなど、SNSの活用を図るとともに、メールマガジンによるプッシュ型の情報発信など、広報の充実を図ります。
○多様な媒体を活用した魅力的な地域情報や地域活動情報などの発信	情報の拠点である図書館の広報誌やテーマ別本棚、企画展示等との連携をはじめ、地域のフリーペーパーやデジタルサイネージ等のさまざまな情報媒体の活用など、地域での学びや活動の促進に向けた取組を検討します。
○市民館で学んだ人や活動している地域団体からの口コミによるPR等の実施	学習成果を活かして地域で活躍する人や地域団体への情報発信を丁寧に行っていくとともに、話題とされるような魅力ある内容の広報、個人や団体の口コミなど、情報発信の充実を図ります。



シニア向け講座



市民館広報物
「わたしのまちの市民館」



デジタルサイネージによる広報



オープンスペースを活用したカフェ事業

(3) 市民館利用者グループヒアリング及び市民館フォーラムでいただいた主な意見

取組の方向性	市民館利用者グループヒアリング	市民館フォーラム
<p>1 行きたくなくなる市民館</p> <p>(1) 施設利用の促進のための取組の推進 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ふらっと入れる工夫があって自然に交流を生み出すしくみがある</u>とよい。 ・ インターネットが利用でき長居できるとよい。 ・ <u>誰でも参加できる小さな講座やイベントが</u>いつもあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の市民館は利用者の固定化や利用スペースが限られている。 ・ フリースペースや席が増えるとよい。 ・ ロビー空間などの余白のある場になるとよい。 ・ <u>魅力的でワクワクするコンテンツや環境</u>があるとよい。 ・ 気軽に立ち寄れるオープンな場で、交流したりできるとよい。 ・ 子どもから高齢者まで気軽に参加できるとよい。 ・ <u>人と出会えるなど、これまでにないニーズに対応すると足を運ぶ</u>と思う。 ・ <u>行けば面白い人に出会える場所</u>になるとよいと思う。 ・ <u>いつ行っても何かやっていてつい通ってしまうような場所</u>になるとよい。 ・ 出会いがある場になるとよい。
<p>(2) あらゆる世代に向けた魅力ある取組の推進 B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者でも参加できる情報リテラシーやITの講座があるとよい。 ・ これまで市民館を利用してこなかった人達も利用者になる「関わりしろ」をつくる とよい。 ・ 他の公共施設を利用する層を市民館につなぐようにできないか。 ・ 小さい頃から利用している居場所になるとよい。 ・ 魅力的な講座があるとよい。 ・ きめ細かなターゲット設定が必要と思う。 ・ 働き世代が利用できる時間帯の講座があるとよい。 ・ 若い人が活躍できる場があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画を充実させるにはさまざまな分野のプロフェッショナルと連携することが必要だと思う。 ・ 市民を支える学びの場をしっかりと提供してほしい。 ・ <u>多様なニーズに合った場</u>になれるとよい。 ・ <u>専門的な人に学べる機会</u>があるとよい。 ・ <u>五感で学べる工夫</u>があるとよい。 ・ 社会教育の講座から気軽に参加できるものでバリエーション豊かな企画があるとよい。 ・ 働く人が利用しやすくなるとよい。 ・ <u>若い世代向けの新しい場</u>になるとよい。
<p>(3) 戦略的な市民館広報の取組の充実 C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを活用する必要があると思う。 ・ 市民館の良さが口コミで広がるとよい。 ・ <u>行く価値が感じられる素敵な場所</u>になるとよい。 ・ 既存の活動やイベントを掛け合わせて市民館のことをより多くの人に知ってもらうしくみが必要と思う。 ・ 地域ぐるみで情報発信するとよい。 ・ 市民館に興味を湧くようなツボを押さえた情報発信ができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市民館の活動がみんなに周知される</u>ようになるとよい。 ・ 行ってみるきっかけになる情報発信が必要と思う。 ・ 市民館が認知されていないように思う。

(3) 教育文化会館・市民館、有馬・野川生涯学習支援施設専門部会

<開催状況>

専門部会	開催日
教育文化会館専門部会	令和2(2020)年 6月16日 令和2(2020)年 12月 3日
幸市民館専門部会	令和2(2020)年 6月26日 令和2(2020)年 12月11日
中原市民館専門部会	令和2(2020)年 7月19日 令和2(2020)年 12月11日
高津市民館専門部会	令和2(2020)年 7月 8日 令和2(2020)年 12月 8日
宮前市民館専門部会	令和2(2020)年 7月 7日 令和2(2020)年 12月 8日
多摩市民館専門部会	令和2(2020)年 6月24日 令和2(2020)年 12月11日
麻生市民館専門部会	令和2(2020)年 12月11日
有馬・野川生涯学習支援施設専門部会	令和2(2020)年 7月28日

<主な意見>

- ・身近な施設というイメージをもってもらいたいが、中・高校生には少し遠い存在かもしれない。
- ・子どもたちが関わりたくなるような取組があると良い。子どもたちが参画して地域の役に立つような取組。子どもたちの達成感につながるし、子ども自身の喜びになる。
- ・若い人に身近になるには、小さいころから利用するきっかけを作ることが必要と思う。中学生・高校生ではなく、小学生くらいの頃からがよいと思う。
- ・若い世代に向けてというと、必ずキーワードになるのはSNSやICTだと思う。いろいろと制約があるのだと思うが、そうした情報発信に取り組めるような整備も必要と思う。
- ・何をやっているのか発信していく広報活動に力を入れていくと良いと思う。
- ・保健所などで行っている健康増進の教室などに参加を勧めたい人がいるが、土日の開催が難しいとのことなので、連携してもらえるとよいのではないかと。
- ・図書館との話になるが、(本来は閲覧スペースということだが)図書館で勉強している人たちのスペースを市民館にもつくるなどすると、市民館にも呼び込めるし、相互に良いと思う。
- ・行きたくなる市民館、良い考えだと思う。単身の高齢者も多く、行き場を見つけられない人の居場所になることも考えられると良いと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートワークが増えてきていると思う。働く世代の方を地域につなげられるような取組があると良いと思う。
- ・市民館は目的施設なので難しいかもしれないが、働く世代の方が市民館を利用する機会として、リモートワークを行えるスペースをつくるとか、シェアスペースをつくるとかすると、足を運ぶきっかけになるかもしれない。自分も家で仕事をしていると居場所がないので、そうしたスペースがあれば利用したい。
- ・自分が学生のころ、安心して勉強に行けたのが図書館や市民館だった。職員の方が見守ってくれているので、何か心配なことがあったらすぐに伝えられた。子どもを安心して出入りさせることができる安全な場所というイメージがある。

- ・向丘出張所では、カフェ事業や交流会が行われていてにぎわいがある良いので、同様に市民館でも区役所と一緒に実施していくと良い。
- ・区役所の防災フェアではマルシェを実施し、販売のできる出店ができるが、市民館では販売行為が禁止されている。こうしたことも若い世代を取り込めない理由になっているかもしれない。
- ・ロビーで行われているカフェ事業はとても良いと思う。もっといろいろな人が利用してくれるような取組にしていけると良い。
- ・中原市民館のフリースペースはいろいろな人でにぎわっている。(他の市民館にも)あのような場所があると良いと思う。
- ・川崎アゼリアのように、子どもの作品などを展示できると良い。ギャラリーではなく、通路やロビーなどを活かした展示で、何気なく通った人が見てくれたりすると思うし、雰囲気も良いと思う。何より発表の場があると子どもの達成感につながり喜ぶと思う。
- ・市民活動を支援するしくみがあると良い。カラーコピーが行えたり、リモートやICTの相談などが行えたり、支えるしくみがあると良い。
- ・いろいろな事業を企画してつながりを増やしたり、学習グループを増やしたりと、とても良いことだと思うが、場所も考えてほしい。今もたくさんの団体や研究会、サークルが利用しているので、部屋がなかなか取れなくて困っている。場所を増やすことも考えてほしい。
- ・昔は成人学級といって、もっと気軽に受けられる講座がたくさんあった。やりたいことを見つけるきっかけにもなっていた。そういうきっかけ的な取組みも行政がしっかりやってほしい。自分のグループや仲間のグループも成人学級から研究会になって今も活動している。
- ・今は講座自体が少ない。自分たちで頑張ってくださいということでそうなっているようだが、行政のフォローも必要と思う。また、仲間づくりをした後のアフターフォローもしっかり考えてほしい。
- ・施設の職員の専門性や資質が重要だと思う。専門性や資質を高める取組をしっかりと考えてほしい。
- ・川崎市には市民館が少ない。区民20万人で1館しかないのはどうかと思う。団体が活動する会場の不足が大きな課題だと思っている。
- ・団体の同窓会や懇親会などの会場としても飲食のできる場が必要。
- ・ICT活用は期待している。全てがオンラインではなく、いろいろ選べるようになると良い。
- ・空いている会議室などの有効活用で個人でも利用できるようになると良い。
- ・オープンスペースを活用した取組は良い。ぜひ進めてほしい。親子が話せる場や絵本などを置いて何となく過ごせ、お茶なども飲めるようになってほしい。居心地の良い市民館になると思う。
- ・雰囲気は利用者ではなく職員がつくるものと思っている。
- ・市民館にとって人材は重要であり、かつては社会教育主事が配置されていた。人材育成をしっかり盛り込んでいることは良い。書いてあるだけでなく、実際の取組を期待している。
- ・地域での施設間の連携も大切であるが、そのためには事務局内の部署同士の連携も大切である。また、会議体などの組織間の連携もしっかりできると良い。
- ・学習相談員の方が定期的に相談の窓口を設けてくれているが、窓口に来ない人への積極的な声掛けなどにも考慮してくれると良い。きっかけとして来館している利用者への「最近どうですか」などの声掛けがあると良い。

川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会委員名簿

(任期 令和4年5月1日から令和6年4月30日まで)

令和4年6月1日現在

選出区分	氏名	所属	備考
1	きくち みわこ 菊地 美和子	川崎市立下河原小学校校長	副部長
2	かじかわ あけみ 梶川 明美	中原区文化協会理事	
2	なかみち やよい 中道 弥生	中原市民館サークル連絡会会計	
2	ただの あやこ 但野 文子	中原区地域教育会議副議長	
2	たきざわかしお 滝沢 甲子男	中原区子ども会連合会副会長兼事務局長	
3	すずき たもつ 鈴木 保	市民委員	部長
4	きむら としえ 木村 利恵	明治大学兼任講師	
5	ひよし のぞみ 日吉 のぞみ	中原区PTA協議会	

〈選出区分〉

- 1号 中原区内に設置された学校の長
- 2号 中原区内の社会教育関係団体等から推薦された者
- 3号 中原区内在住の社会教育に関する経験を有する市民
- 4号 学識経験者
- 5号 中原区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者